

2016-11-29

内川「日本一取り戻す」

帰県し抱負



WBC最終メンバー入りへ「調整していきたい」と話す内川＝27日午後、別大興産スタジアム

2千本安打にも意欲

プロ野球ソフトバンクの内川聖一（大分市出身）が27日、野球教室のために帰県した。2年連続の「主将で4番」として過ごした今季は打率を3割4厘に戻し、自己最多の106打点を挙げたが、

チームのリーグ3連覇はならず日本一にも届かなかった。それでも来年にワールド・ベースボール・クラシック（WBC）を控える侍ジャパンの強化試合にも招集されるなど、来

季も一層の活躍が期待される。今季を振り返り、来季への思いを聞いた。――今季を振り返って。個人成績のことよりもチームが日本一になれないことが全て。悔

しい思いをした。――年明けはキャンプの後、WBCの1次ラウンドが始まるなどまた過密日程になる。来年で35歳になる。少しのんびりしたい年にもなってきたが、こういう

状況にあるのは有り難いこと。まだ成長しろ、と言われている証しと受け止めたい。

――WBCへの思いは。日の丸を背負う重圧は覚悟が必要で簡単ではないが、光栄なこと。また最終メンバーに選ばれるようしっかり調整していきたい。

――来季に向けては。2千本安打達成（今季終了時点で1896安打）も見えてきているが。個人のことよりもチームの中で何をするかが必要とされているかを大切にしたい。ただ自分が打てば点が入る確率が高い打順を打たせてもらっている。チームとして日本一を取り戻すことと、個人の成績と両方を追い掛けていければと思う。